

地域の通信

わ

区政推進課 地域力推進担当 411-7026

菅田地域ケアプラザ
 学齢障がい児余暇支援事業
なかよしキッズすげた

共催：神奈川県社会福祉協議会
 協力：神奈川県立みどり養護学校



小雨が降る3月の土曜日に、学齢障がい児余暇支援事業「なかよしキッズすげた」を訪れた。この事業は、菅田地域ケアプラザと区社協が共催で実施し、神奈川県立みどり養護学校が協力している。

目的は様々な障がいがある子どもの休日の居場所づくり。対象者は学齢期の子どもたちで、現在はみどり養護学校や個別支援学級などの子どもたちが利用している。

親の思いが地域の活動につながる



代表の尾崎さん

主なプログラムは、手作りのお菓子づくりや畑での野菜づくりと収穫体験、野外活動などの季節に合ったイベントで、毎月第4土曜日10時～11時30分に実施している。

きっかけは、この事業の代表である尾崎さんが、障がいがある子どものサポートを区社協に相談したからだ。当初、支援者がなかなか見つからず、区社協は尾崎さんが住む地域を担当する菅田地域ケアプラザに話をもちかけ、現在の「なかよしキッズすげた」の活動につながった。

平成24年からスタートし今年で7年目を迎える。障がいがある子どもの支援は、ただ子どもの面倒をみてもらうだけではなく、子どもたちが地域の方や同じ子ども同士で交流することが、その支援につながると考え活動している。

「普段あまり交流のない地域の方と出会うことができ、何より子どもたちのことを、地域の方に知っていただく場になっているのが嬉しい」と代表の尾崎さんは言う。子どもたちの交流はもちろん、保護者と地域の方が交流することもこの場の大事な要素となっているようだ。保護者の一人は「学校に行けない時があっても、ここには来られる子がいます」と笑顔で話す。



アットホームな雰囲気、みんな一緒に参加できる楽しさがここにはある

いつも笑顔の活動を手伝っています



ボランティアの本多さん（中央）



ボランティアの平林さん

ボランティアさんも欠かせない存在だ。その中の一人、本多さんは、主にお菓子や工作の手伝いをしている。この日のイベントは、畑でじゃがいもの苗付けをする予定だったが、雨で流れてしまったため、急きょ、本多さんのアイデアで 春の“桜餅”作りとシールを張ったオリジナルデザインのランタン作りとなった。

「関わって 4 年になります。ここに来る親子はホントに笑顔が多くて、私の方がファイトをもらっています！」と本多さんは熱く語る。

また、菅田中学校に在学中、「ちょいボラ（*）」をきっかけに参加した平林さんは、高校生になっても積極的に関わり、参加者と年齢が近いこともありお兄さんのような存在になっている。「この活動がただ楽しいからずっと続いている感じです」と、はにかみながら平林さんは言う。

ここからさらに広がり



地域の方との触れ合いも工夫している。それは「なかよしキッズすげた」と同じ時間帯に、隣の部屋の料理室で午後の活動準備でお惣菜を作っている団体と、お互いが作った料理を交換し、味の感想を伝え合いながら、ゆるやかな関係を作っていること。活動の様子がわかるように部屋の仕切りとなっているパーティションは開けてあり、声や匂いを感じながらお互いが活動し、温かい交流になっている。

運営を通して課題もある。参加者がなかなか増えないことだ。学校の休みの日に実施する余暇支援は、安全の確保として親子で参加する必要があるが、子どもだけの参加を希望する親が多いことや、公共交通機関を利用しづらい子どもは車での参加が望まれるが、駐車場の確保が難しいという現状がある。それでも参加者を増やしたい思いは強く、今後は、近隣の小中学校の個別支援学級や放課後等デイサービスなどと連携し、PR を広げて参加者の増加を目指していく。

障がいがある人は支援の声が出しづらい事がある。地域の中でその声に気づき、支援する場所や人が増え、そのつながりで課題解決していくことが、これからますます求められていくだろう。

【なかよしキッズすげた】

開催日時：第 4 土曜日 10 時～11 時 30 分

利用料：100 円～300 円

対象：みどり養護学校、近隣小・中学校の個別支援学級の児童・生徒など

会場：菅田地域ケアプラザ

* ちょいボラ（ちょいボラサポーターズ club）

近隣地域の中学生を対象に、4 つのケアプラザが共催し、年間を通じてボランティア活動の機会を提供する活動